

1年次

生命科学・環境科学概論

【Introduction to Life and Environmental Science】

担当責任者 教育教授 (RI研究センター) 馬田 敏幸

ねらい

1. 生命活動と環境の関係をミクロとマクロの視点から理解する。
2. 我々が置かれている現在の地球環境を理解する。

学修目標

1. 生命活動の基本単位である細胞のはたらきを説明できる。(Ⅱ-1)
2. ペプチド・ホルモンを例をあげて説明できる。(Ⅱ-6, V-2)
3. エネルギー資源と環境問題について説明できる。(Ⅲ-5)
4. 地球温暖化・気候変動問題について説明できる。(Ⅲ-5)

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。

成績評価方法・基準

1. 理解度チェックのための2回の小テストの結果と受講態度等により総合的に判断する。
2. 100点満点換算で、A、B、C、D、Fの5段階評価とする。

○教科書

なし(毎回、講義用テキストを配付する)

○参考書

1. H. Lodish・他著 石浦章一・他訳「分子細胞生物学」(東京化学同人)
2. RK. Murray・他著 上代淑人監訳「ハーパー・生化学」(丸善)
3. 環境省「令和2年版環境白書」(日経印刷)

講義:2305講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.10.7	木	7・8	ペプチド・ホルモンの生化学	D	12	1	児島 将康(学外)
10.14	〃	6・7	細胞機能解析とがん治療	C	1	〃	馬田 敏幸
10.21	〃	7・8	放射線の健康影響、小テスト	E	6	〃	〃
11.11	〃	〃	公害から環境問題へ				〃
11.22	月	3・4	地球温暖化とエネルギー資源				〃
11.25	木	7・8	気候変動問題、小テスト				〃